

英国レスター教区の皆さんの教会訪問

5月26日(日)18時よりイギリスのレスター教区からのお客様、アラン・レイス司祭および女性司祭二人、ソーシャルワーカーの女性と英国在住の日本女性を囲むタベの会が20人の参加で開催されました。

英国レスター教区は横浜教区と姉妹都市を結んでいて、日本とも親しい教区です。今回の東日本大震災でも多くの支援を行ってくれています。この度この5月で「一緒にあるこうプロジェクト」が終了するのに伴い、一度被災地を見ておきたいと云うことで日本訪問となりました。帰路に旧知の奥石司祭の川越教会を訪問し、信徒との交わりをもち、あわせて小江戸観光をしたいと云うことで訪問となりました。

18時からタベの礼拝を信徒の皆さんと共に行い、食事の前にアラン・レイス司祭よりレスター教区は古い繊維の街でインド人が多く、モスLEMも多い街で、教会とモスクとがどのように調和していくか、他宗教との関係



が課題であるとのお話がありました。

当日は皆さんの一品持ち寄りの夕食で、英国の方には日本の家庭料理を味わっていただき、美味しいと好評でした。食事の中での会話では「今回二人の女性司祭がお見えですが、英国では女性の司祭は多いのですか」とお尋ねしたところ、20年前ごろから女性司祭職が置かれ、今では三分の一は女性の司祭であるとのことでした。また、日本と違って、主教が牧師を派遣するのではなく、教会が牧師を選任するとのこと。その際、各教会の優先事項を明示した募集広告を出し、教会委員会が面接し採用を決定するとの話を聞きました。また、英国の司祭からは「日本は原爆を受けた被爆国であり、今回の震災での福島原子力発電所での事故の当事国として、今後原子力発電所をどのようにするのだろうか」などの質問を受けました。お話が弾み、21時過ぎまで楽しい時間を持つことが出来ました。3人の女性は松村恵美子さん宅にホームステイし、アラン・レイス司祭は山本洋子さん宅にホームステイしました。山本さんのお宅ではドイツ人のご主人と夜遅くまで会話が弾んだそうです。

翌日は小江戸散策となり、教会を出て初雁幼稚園を見学し、川越城址を見、NHKでも放映された山崎純子さんの実家の蔵を見せていただき、その後、小江戸のメイン通りを散策、教会に帰り、名残りを惜しみながらお別れしました。



初雁幼稚園の前で



蔵の入り口で水琴窟の説明を受ける



蔵の中で



蔵の中で

